

教員・院生共同研究プロジェクト（公開学習会）

（テーマ）中国の民族／少数民族問題の特殊性と一般性について
移動と定住における部族・宗族（大家族制）の役割を考える

開催日 2018年2月7日（水） 午後6時30分から

会場 大阪市立大学創造都市研究科・サテライト教室（当日、教室を掲示します）
（大阪駅前第2ビル6階）

（学習会開催の目的）

ここ数年、中国から来た留学生の論文指導や共同の勉強会において、しばしば感じて来たことは、指導する側の日本の教員の中国社会への理解が不十分であるということである。とりわけ、「56の民族によって構成された中国」といわれる民族問題にたいする誤解や無理解、あるいは戸惑いを折に触れて感じてきた。もちろん、それは留学生の側でも、このテーマに上手く答えられないという問題性が孕まれている。

この両者の側の問題を越えていくために中国の民族問題について理解を深めるための学習会を開催することが必要であろうと考えた。

日本(人)の民族問題に対する理解の一般的な枠組みは、多数派の支配的民族と先住民族、あるいは被支配的（少数）民族との支配・被支配、あるいは民族差別という単純化した理解のように思われる。つまり「単一ヤマト民族」か、それを批判するにしても、せいぜい琉球、アイヌを支配圏に組み込んだ日本の「多民族」国家という理解である。ここでは、ともに「ヤマト民族」それ自体を疑う視点はない！

（議論する項目案）

以下の全部を一度に出来るかどうかは？ ですが・・・。

1、「民族」という虚構について

近代国家、民族国家、幻想共同体の構成要素としての「民族」という虚構
近代国家の形成とナショナル（民族問題）の形成の幾つかを概観する
スペイン／フランス／ アメリカ合衆国 等

2、現代中国の民族の理解について

- ① 中国人民共和国憲法の民族の基本的政策・視点（前文に示されている）
- ② 費孝通の「中華民族多元一体格局」（1989年）
- ③ ①②の批判的検討

3、多元的な民族の存在について

- ① 黄河～黄土高原／中原に繰り返し生まれた征服王朝と
長江～江南
- ② 移動の様々な形態
 - ・前近世の戦争形態と民族・部族、宗族の組織化と移動
 - ・民族・部族、宗族の移動
遊牧と農耕 開拓
- ③ 清朝と辛亥革命
- ④ 抗日戦争と民族問題

4、ヤポネシアとヤマト民族